

# 農商工等連携

かごしま黒豚と有機農法で生産した

「有畜農産物」の販路開拓

(平成20年農商工等連携事業計画認定)

中小企業者 有限会社霧島高原ロイヤルポーク

農林漁業者 農事組合法人霧島高原純粋黒豚牧場、中崎養豚

連携参加者 株式会社フロンティア霧島



農林漁業者  
農事組合法人霧島高原純粋黒豚牧場  
中崎養豚



連携参加者  
株式会社フロンティア霧島



中小企業者  
有限会社霧島高原ロイヤルポーク

**認定**



有限会社 霧島高原ロイヤルポーク  
代表取締役 たいらくにのり 平 邦範 さん

農商工等連携に取り組むきっかけとなったのは、黒豚生産グループ「霧島黒豚会」が解散の危機に陥ったことです。もともと黒豚生産者は人数が少なかったのですが、さらに高齢化や施設の老朽化などの経営環境の悪化により生産を続けていくことが難しくなりました。全国に誇れるかごしま黒豚を守り続けていくために、これまでの卸売販売だけでなく、国の事業などを活用しながら、生産者との協力による販路の拡大などに努めてきました。黒豚を核にして地域経済を発展させようと考えたのです。

そうした取り組みが評価され、平成20年に日本の先進モデルとして「農商工連携88選」に選ばれました。

## 豚舎も地元木材で

黒豚を育てている豚舎は、県内産の木材を使用し、地元の業者に建ててもらっています。豚にとって住みやすい環境づくりとともに、地元経済の支えになればと思っています。

## 農商工の連携だけでなく

### 観光業とも連携

黒豚は霧島市霧島地区で生産しており、産直レストランでは、料理として提供するのはもちろん、加工品の販売も行ったり、販売ルートを確認しています。また、霧島地区への観光の拠点としても利用してもらえよう、観光パンフレットなども備えています。そうすることで地域全体の活性化が図られ、地産地消も進み、黒豚のさらなるブランド化も確立できます。鹿児島県の県民豚とも言えるかごしま黒豚をもっと広めていくことが今後の目標になっています。



霧島連山をバックにした  
ウッド豚舎

# 鹿児島県の産業おこしに取り組もう！

## 地域産業資源活用

阿久根ウニを「捨てるどころがないほど完全に活かした」  
 オリジナル商品の開発と販路拡大  
 (平成20年地域産業資源活用事業計画認定)  
 有限会社尾塚水産



廃棄するしかなかった内臓などを有効活用して、ウニ味噌やウニ醬（魚醬）などを生産



ウニのトゲをあえてそのまま残した器を開発



ウニ殻から作られたカルシウムパウダーを利用して、健康食品やせっけんなどさまざまな商品が誕生

**認定**



有限会社 尾塚水産  
 代表取締役 おづか えいこ 尾塚 エイ子 さん



ウニ殻を使ったオリジナル商品を開発することにしたのは、ウニの身をとったあとに捨てる大量の殻や内臓をなんとか売り物にできないかと思ったことがきっかけでした。また、阿久根の海では、近年、温暖化の影響を受けて食用にならないウニも生息するようになってきました。もともとはいなかったウニがたくさんの藻や海藻を食べることで生態系が壊れ、特産品であるウニの品質が落ちていく危険性が高まるので、こうした食用にならないウニをなんとか利用できないものかということも考えました。

### オリジナル商品の開発

生食や瓶詰めに適さないウニの内臓などの部分を有効活用して、ウニ味噌やウニ醬を製造しました。また、1000度を超える高温でウニ殻を焼成<sup>(\*)</sup>することで海のミネラル成分もたっぷり入った良質なカルシウム粉末をとることに成功し、これを使った商品開発を行いました。その他にもウニ殻を器としても活用できるように商品化しました。

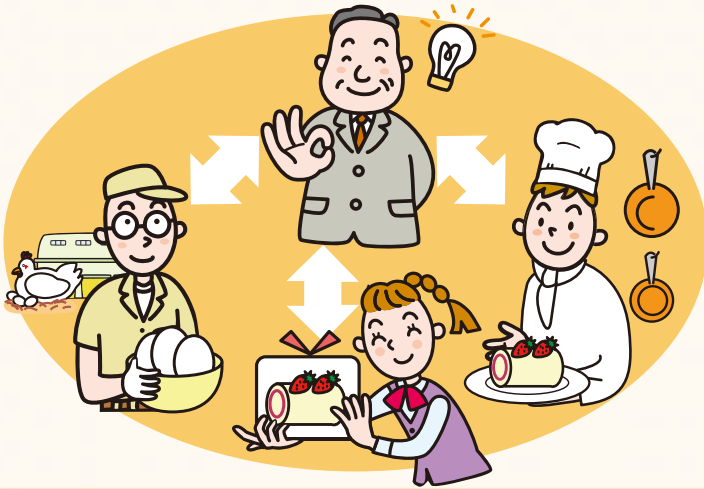
(\*)焼成＝原料を高温で焼いて性質を変化させること。

### 阿久根の海を守り地域の活性化を

オリジナル商品は開発できても、市場に流通させて、販路を確保することが重要になります。また、食品部分は自社で対応できるものの、工芸の部分は製品化する協力者を得ることが必要になります。このため、商談会や展示会に積極的に参加しています。今後の目標は、こうした課題を解決していくことです。

# 県の事業紹介

鹿児島県が取り組んでいる連携事業推進のための施策



鹿児島県では、県の基幹産業である農林水産業の活性化や中小企業の振興を図るため、農商工等連携を推進しています。

平成24年度は、「農商工等連携推進会議」の開催などによる推進体制整備のほか、①農林漁業者や中小企業者の連携に向けた気運の醸成、②「かごしまの逸品商談会」等を通じたマッチング機会の提供、③連携事業に対する商品開発から販路開拓までの専門家派遣による支援、④農産物等についての需要調査などを実施しています。

## ◆推進体制の整備

- ◆ 農商工等連携推進会議などの開催
- ◆ コーディネーターなどの設置
- ◆ 「農商工等連携実践コーディネーター」の配置
- ◆ 「6次産業化」推進員の配置
- ◆ 「農産物加工推進員」の配置

## ◆農商工等連携への理解促進や気運の醸成に向けた取り組み

- ◆ 農商工等連携成功モデル創出事業の実施
- ◆ 「かごしまの逸品商談会」等を通じたマッチング機会の提供
- ◆ 県内外の食品加工業者等を対象とした需要調査
- ◆ 食品関連事業者などからの需要の受け皿となる組織の創設
- ◆ 農林水産業の6次産業化推進の取り組みとの連携
- ◆ 県ホームページでの取り組み事例紹介



県ホームページ  
ホーム>産業・労働>商工業>  
農商工等連携事業計画認定事業者の紹介

(※1) 6次産業化 = 1次産業 + 2次産業 + 3次産業 = 6次産業という考えに基づいて、農林水産業者が農林水産物の生産（第1次産業）だけでなく、加工品加工（第2次産業）、流通・販売等（第3次産業）にも主体的、総合的に関わることで、第2・第3次産業者が創出している付加価値を農林水産業者が得ようとする取り組み。

## (社)鹿児島県工業倶楽部

所在地：鹿児島市名山町9-1（県産業会館中2階）  
☎ 099(225)8012

講演会やグループ単位の研究会などにより、異業種企業間の交流を深め、相互協力しながら新商品や新技術の開発などを促進し、県内産業の発展に寄与する取り組みを続けています。ものづくりに関心のある企業の参加をお待ちしています。

会員の4分の1が食品加工に関係している県工業倶楽部では、従来の食品加工に加えて、農林漁業者との有機的連携によりこれまでになかった製品を作り出していく農商工等連携を支援しています。

具体的には、農商工等連携に関する講演会や事例発表会、意見交換会、交流会など連携のきっかけづくりの場を提供しています。

また、県の委託した農商工等連携実践コーディネーターが、消費者が何を求めているかなどの情報収集、交流会などに参加した農林漁業者などからの相談対応、中小企業者との連携の提案を行っています。

## (公財)かごしま産業支援センター

所在地：鹿児島市名山町9-1（県産業会館2階）  
☎ 099(219)1270

地域資源を活用しての「創業」や、「新事業を起こそうとする個人やグループ」「事業化を目指す中小企業」「農商工等連携を目指す企業と農林漁業者の共同体」などが行う研究・試作品開発や販路開拓に対する助成等さまざまな事業を展開し、支援を行っています。

かごしま産業支援センターは、県内中小企業の総合的な支援機関として、さまざまな事業を展開しています。

特に「ものづくり」については、県内中小企業の創業支援のほか、新製品・新技術の研究開発支援を中心に、地域資源の活用による事業や農商工等連携への支援に積極的に取り組んでいます。あわせて地域経済の活性化につながる事業や取り組みを支援し、販路の開拓・拡大などのサポートにも力を入れています。

また、ワンストップサービスの総合相談窓口において、コーディネーターの配置や専門家の派遣などにより多様な相談やニーズに迅速・的確に対応しています。

## かごしま産業おこし挑戦事業

県では（公財）かごしま産業支援センターに「かごしま産業おこし挑戦基金」を設置し、地域の産業おこしを応援するさまざまな支援策を用意しています。  
平成25年度事業は、平成25年4月～5月に公募の予定です。

事業名	事業内容	募集対象	事業期間	助成額
① 中核的企業 創出プログラム 事業	自動車、電子、食品、成長産業（環境・新エネルギー、健康・医療、バイオ関連産業）関連の有望な技術などを有するか、もしくはその市場に新たに参入する意思を持つ中小企業者等に対して、中核的企業としての創出に必要な各種事業の実施に要する経費の一部を助成する	県内 中小企業	5年度 以内	950万円 以内
② 地域資源活用 起業家支援事業	地域資源を活用し、起業を目指す個人等に対して、起業に向けた事業展開および研究開発、試作品開発、販路開拓などを図るために要する経費の一部を助成する	起業を 目指す 個人等	2年度 以内	300万円/年 以内
③ 地域資源活用・農 商工等連携新事 業創出支援事業	地域資源を活用して事業化を行おうとする中小企業者等、もしくは県内における農商工等連携の促進を助ける取り組みに対して経費の一部を助成する	県内中小企業 者、もしくは、 中小企業者と 農林漁業者と の連携体	2年度 以内	300万円/年 以内
④ 新事業参入調査 支援事業	新分野、新市場への参入、研究開発実施に関する事前調査および製品企画に要する経費の一部を助成する	県内 中小企業	単年度	30万円 以内
⑤ 新市場開拓調査 支援事業	製品の市場開拓を図るため実施する展示会への出展および展示会での市場調査（アンケート）に要する経費の一部を助成する	県内 中小企業	単年度	30万円以内 （国外50万円 以内）
⑥ 新用途開拓調査 支援事業	以前開発し、本格的な事業化に至っていない技術・製品に対し、新用途での事業化に関する調査、調査結果を踏まえた展示会への出展などに要する経費の一部を助成する	県内 中小企業	単年度	150万円 以内

※助成率は全事業、対象経費の2/3以内となっています。

### 【地域資源活用・農商工等連携新事業創出支援事業】

今年度、助成の対象となった事業を紹介します。

企業名	テーマ
日置南洲窯(日置市)	薩摩焼と川辺仏壇とのコラボ / 陶器と漆のコラボ
(株)オーケー社鹿児島(鹿児島市)	シラス断熱材を利用したバイオマスボイラーの開発と実用化
鹿児島県オーストリッチ事業協同組合(鹿屋市)	地域資源ダチョウ肉を活かした大隅特産品の開発 (ダチョウ肉を活かした生ハム、ウィンナー、ダチョウ卵を使ったマヨネーズの開発)
(有)やまさき(始良市)	黒さつま鶏の「桜島灰干し」「鶏味噌」の開発と販路開拓
新洋水産(有)(いちき串木野市)	マグロ血合いの活用方法と製品化
福山黒酢(株)(霧島市)	黒酢の風味改良技術の開発
(有)大田水産(阿久根市)	長島の養殖鰯(ブリ)を利用したさつま揚げの開発と事業化
くるくま草(南九州市)	こしき海洋深層水塩と乾燥粉末米麴を使ったドライ塩麴の開発と応用、販路拡大
アネット(有)(鹿屋市)	スポーツ実施者を対象とした「翠王(すいおう)」と「冬虫夏草」によるサプリメントの開発(H23～継続)
(協)南州高山ミートセンター(肝付町)	完全無添加ソーセージ原料挽肉の製造技術開発(H23～継続)
小城製粉(株)(薩摩川内市)	さつま雅(ごぼう)の蜜漬け(H23～継続)